

山鹿市民医療センター経営改善評価委員会
会議録（要約）

開催日時：平成24年3月23日（金）午後6時

開催場所：山鹿市民医療センター 医療研修センター

出席委員：黒田委員、山口委員、吉岡委員、林委員、上野、牛島委員（会長）

欠席委員：なし

傍 聴：山鹿市議会福祉厚生委員（藤原委員長、丸山委員、吉本委員、藤原委員）

病院（事務局）出席者

：本郷院長、豊永副院長、福島副院長、高木副院長、竹下看護部長、山田副看護部長、荒木事務部長、野田総務課長、永田経理課長、阿蘇品経理課財務係長、藤井医事課長補佐

1, 開会

2, 事業管理者あいさつ

3, 会長あいさつ

4, 議事

（1）山鹿市民医療センター改革プラン「改訂版」（案）について

【質疑・意見】

委員 ・改革プランの別紙2で決算見込は3,300万円だが、2月分は勘案しているのか。

・3月が良ければ黒字決算になると思ってよいのか。

事務局 ・3月の月次決算状況と決算整理もあるので、23年度の収支見込みは現在のところ分かりません。また、急遽3月に基礎年金負担が800万円費用として発生したのが大きい。職員は、全員黒字化を目指しており、職員全員がこの数字を注目している。

会長 ・もし、黒字決算になったら何年ぶりか。

事務局 ・平成18年度以来となります。

委員 ・これだけ改善されたことに敬服する。

会長 ・改革プラン(改訂版)の目標達成に向けての具体的取り組みの中に、医師宿舎確保のことがあるが、あてはあるのか。

事務局 ・まずは、現有の市有地のなかで適当な物件があれば譲渡等をお願いしようと考えています。

会長 ・平成26年度の医師28名の確保の見通しは如何か。

事務局 ・平成25年4月1日には許可病床201床の運営を考えています。平成24年4月には緩和病棟の開棟により187床になります。残り14床の稼動には28名の医師が必要と考えているところです。

事業管理者 ・医師28名確保は容易ではないと認識している。努力する数字である。

会長 ・緩和ケアの体制は整っているのか。専任医師は必要なのか。

- 事務局 ・オープンに向けて最終的な環境整備と人員(看護師)の確保も済んでいます。また、医師については、専任の医師は必要なく担当制となる。
- 委員 ・4ページの市民医療センターの果たすべき役割の中に臓器別センターの設置とあるが、具体的なイメージはどういうものか。
- 事業管理者 ・当面、消化器病センターが作れればと思っているがスタッフが十分でない。なるべく早い時期で、スタッフが確保でき次第センター化を考えている。
- 委員 ・センター化して臓器別専門医療の推進が目的と思うが、「総合診療科の機能向上」との整合性はどうか。
- 事業管理者 ・現状の総合診療科は、とりあえず専門科(医)に回す交通整理的役割と認識している。
- 委員 ・厚生労働省の総合医、総合診療科とはイメージが違い振分け外来になっており、厚生労働省のいう総合診療科と異なるところが気になる。
- 事業管理者 ・スタッフが確保できれば総合的な判断、治療が可能となるが、現状をご理解いただきたい。
- 委員 ・紹介外来制を目指すとするが、一日300人の外来患者の確保は可能であるのか。医師の負担軽減をみると、外来患者は現状並みの数値目標で良いのではないか。
- 事務局 ・ご指摘のとおりと思います。紹介外来制により外来患者は減少すると考えますが、今後の診療科の増加と入院患者数の1.5倍以内を考慮しての目標値です。
- 会長
事務局 ・現在の紹介率はどれくらいですか。
- 事務局 ・新病院効果もあり、紹介状を持参されない患者さんが増えたことで、60.7%位である。地域医療支援病院の要件をぎりぎりクリアしている状況である。
- 会長
事務局 ・熊本に地方独立行政法人はあるのか。
- 事務局 ・無いと思う。福岡県にはあると聞いている。
- 会長 ・9ページに病院の経営状況に応じて給与の増額とあるが、黒字の場合還元しようと考えているのか。
- 事務局 ・経営状況に応じて、期末勤勉手当を支給すると病院設置条例にあることから、収益が向上し収支が黒字化した場合には、将来の設備投資や借入金の返済等を勘案し、職員に配分できるものがあれば、頑張りの証として増額も考えなければならないものと思っている。
- 会長 ・大牟田市立病院も全員に臨時ボーナスを支給している。
- 委員 ・単独型の臨床研修病院を目指すとするが、条件が厳しいところがある。現在市民医療センターの施設認定は外科が多いので、内科の認定を目指す方向が良いと感じている。
- 事務局 ・ご意見ありがとうございます。
- 会長
委員
事務局 ・医師修学資金制度は続いているのか。また、現在何名であるか。
- 委員 ・修学資金制度は6年間受給した後、何年間勤務すれば免除になるのか。
- 事務局 ・被貸与者は現在3名。条例により常勤医師として10年間(初期臨床研修の終了のち)の当センター勤務で免除となっています。

- 委員 ・他の市町村のケースでも感じているところであるが、研修医、専門医の問題である。初期臨床研修の2年間では内科の認定医が取れないし、他の認定医も取れない(外科であれば市民医療センターで取れるかもしれないが)。内科が取れないと分かった時点で受給を辞退する学生が出てくる可能性がある。制度を推進するなら、是非専門医が取れるような体制を作り上げないとうまくいかないと思う
- 会長
委員 ・勤務年限に柔軟性を持たせても良いと思う。
・初期研修を除いての10年は長い。専門医の資格が取れる制度へ変えたほうが良いと思う。高校卒業してすぐの医学生には制度の意味が分からないものと思う。
- 事務局 ・その点は条例制定の折も議論になったところです。連続10年なのか、途中留学等の場合は可とするのか、柔軟な対応を考えなければならないものと考えています。
- 会長
事業管理者 ・シネアンギオの稼働件数はどうなっているのか。
・循環器内科の医師が現在1名であり、大学からの応援があったときに実施している状況です。現在週1例となっている。循環器内科の医師の派遣を熊大へお願いしているところであるが、今年4月の派遣は難しく引き続き複数派遣をお願いしていく。
- 会長
事業管理者 ・OP件数はどうなっている。
・常勤の麻酔科医の確保により、件数が増加しています。
- 会長
事務局 ・4月の診療報酬改定に向けての見通しと対応は。消費税アップは見ているのか。
・厚生労働省からの通知による病院機能評価係数が二転三転しており改定による効果は不明ですが、現状から2%アップ位ではないかと推測しています。大まかな数字では入院収益で2000万円程度の増収ではないかと考えています。
・消費税が上がった場合は影響が大きいと考えます。前回消費税が3~5%上がったときは診療報酬への手当があったと記憶していますので、今回も政府の対応次第と考えています。
- 委員
副院長 ・2月の患者が伸びているが、その中で産婦人科の患者数はどれ位伸びているのか。
・分娩回数は、2月12例、3月13例。延患者数は、昨年9月から2月までで、入院257名、外来476名です。
- 委員 ・増えているのはありがたい。大山先生(大山医院)が閉められると聞いた。開設された意味が地域にとってはありがたい。
- 会長
事務局 ・別紙2の平成25年度の地域産科中核病院とは何か。
・産科医2名の勤務や一定の実績が要件となっており、要件を満たせば、県の指定を受けることとなります。
- 委員
事務局 ・10Pの未収金の削減とあるが現状はどうか。その対策は。また、電子カルテ導入によるメリットはどういうものか。人件費の削減になるのか。
・未収金は1月末時点で累計2400万円程度であった。対策としては毎月の督促状と昨年9月から訪問徴収(出張督促)を行なっている。また、限度額認定の制度を入院

時に説明し積極的な活用を促しており、未収金そのものの額が増えている訳ではない。

- ・電子カルテについては24年度予算で2億円を計上しているが、経営が非常に厳しいため、極力投資額を絞りたいと考えています。また、直接的な人件費削減には結びつかないが、効率的な業務運営が図れることと、直接的な削減効果としてはカルテを運搬する職員の人件費の削減には繋がるものと考えています。

会 長
事務局

- ・電子カルテの整備は当初計画より遅れているようだが。
- ・経営状況に応じて設備投資額を考えなくてはならないと考えていますが、現在のオーダリングシステムが老朽化し、先日もストップしたことにより業務に多大な支障が生じた。周辺機器も修理交換部品がもうないなど更新は避けられない状態です。

委 員

- ・第5次鹿本地域保健医療計画は24年度までで、平成25年度から第6次計画として推進していくが、6次計画では精神疾患を加えた5疾病5事業となり、市民医療センターでは、うつ病、認知症の患者への対応などで重要な役割を果たして頂きたい。加えて在宅医療を進めて行く事となっており、地域医療の連携が重要でクリティカルパスの効果的実現へ努めてもらいたい。

- ・更に山鹿市で健康増進計画と食育計画を策定したが、山鹿市ではヘモグロビンA1Cの異常を示す方が特に多く、そういう点も含めてクリティカルパスの効果的実現を図ってもらいたい。

事務局

- ・クリパスについては、2ヶ月に一度、パス発表会を開いており、現在130～140のパスがある。地域医療連携パスの充実にも努めていきたいと考えています。

委 員

- ・在宅医療に向けての地域連携パスに関してはどうか。

事業管理者

- ・地域連携パスは医師会の先生方と話をしている。大腿部頸部骨折は進めているが実働はできていない。熊大との連携をもって、がんの連携パスは出来ないものかと医師会の先生方と相談して行きたいと思っている。

委 員

- ・業績が改善されており、賞与の削減等経営改善の決意が表れ素晴らしいことと思う。その中で病床数が増えた中で病床利用率も上昇しているのか。

事務局

- ・病床利用率も伸びているところです。前回の改革プランは病床利用率を医療法上の201床で算定していたので、増加傾向が見え辛いですが、運用病床で算定すると利用率は伸びている状況です。

委 員

- ・2月も患者が伸びているが、3月の状況はどうであるか。

事務局

- ・3月は昨日時点で一日平均患者数が入院157名、外来が285名です。残り10日程度をこのペースをキープできればと思っている。

会 長

- ・平均在院日数はどうか。

事務局

- ・2月の実績は16.4日でした。

会 長

- ・3～4年位前と比べると全てが改善されている。

委 員

- ・人材の確保の中での医師確保の対策強化を図るとあるが、是非医師宿舍確保に向けて傍聴の議員の先生方も側面から応援を願います。

委 員

- ・プラン以外のことで、市民からの意見を聞いたのでお伝えします。

・玄関のひさしが高く雨が降ると横からの雨で濡れてしまう。身障者駐車場から車椅子で来るときも濡れてしまうので何とかならないか。

・また、総合案内（再来受付機）が無くなり不便という意見と、テレビカードが2日で無くなるので、どうにかならないかと云う意見がある。入院患者はTVが楽しみ。

委員
事務局

・TVカードは収入源でもある。

・市民の皆様にはご迷惑をお掛けして申し訳ありません。先ず玄関の高さは消防車両の通行を考えて作ったものですので、ご理解いただきたいと存じます。

・障害者の駐車場についても現状玄関まで屋根がなく不自由をお掛けしていますが、現在のところ予算の制約等もあり取り掛かれていないところです。

・総合案内の件につきましては、午前11時30分までは看護師長等が案内する体制としていますが、その時は別の案内等でその場を離れていたのかも知れません。ご迷惑をお掛けしまして申し訳ありません。

・TVカードについても、他院の設置状況を見ながら設定しておりご理解をお願いいたします。

委員

・最近の意見では、受付から会計までの流れが良くなったと聞いた。努力されていると思う。

委員

・少し気になることだが、医師の確保は他の医療機関も同様に苦労していることと思われ、市が対応することであれば医療センターだけでなく公平にやるべきで、その方が山鹿市の医療のため、全体のためになると思う。

委員
会長

・ご意見、ありがとうございます。今後、検討させていただきます。

・では、その他意見はないようですから、これで閉会といたします。本日はお疲れ様でした。